



## 第27回養護部会だより

開催日 平成25年1月10日  
 会場 札幌市教育文化会館  
 発行 養護部会運営委員会



皆様よい年越しを迎えられましたか？高教研も記念すべき50周年を迎えました。

平成生まれの生徒が入学し始めて、早10年が過ぎ、もうすぐ21世紀生まれの高校



生も誕生するという時代の流れの中、今回、養護部会ではシンポジウムを企画しました。社会の変化の影響を受ける、子どもの心身の健康、安全、安心を考える上で、養護教諭の役割をどうとらえるのか、シンポジストそれぞれの立場からの意見をもとに、参加者の皆様とともに考える時間を設けてみました。参加されたみなさまにとって、有意義な時間になりますよう、運営委員一同願っております。どうぞご協力をお願いします。



### 演題 「専門職としての養護教諭に期待する」

#### 講演

講師 岡山大学大学院教育学研究科教授 高橋 香代 氏

読売新聞のYOMIURI ONLINに次のような記事がありました。ご紹介します。

#### 《 「保健」多様化 増す役割 》

今回の連載では、子どもたちの課題が多様化する中で注目される全国各地の養護教諭の実践を報告した。教育現場における養護教諭の役割や可能性について、養護教諭の資質能力の向上について研究している日本養護教諭養成大学協議会の高橋香代会長（岡山大学大学院教育学研究科教授）に話を聞いた。

——養護教諭を取り巻く環境をどう見るか。

「以前は病気やけがの処置が仕事の中心だったが、悩みや不安を抱えている子どもに対応する割合が大きくなってきた。アレルギーや感染症、いじめや発達障害など子どもの健康課題が多様化し、家庭の問題を抱えた子どもは増えている。理由なくふらっと保健室に来る子の数も増えており、養護教諭の役割は重要だ」

——仕事の意味は何か。

「養護教諭は、学校保健を推進する中核的な存在。保健室で個別に対応するので、子どもの体や心の状態に気付きやすい立場でもある。例えば『おなか痛』と訴えて保健室に来た子がいれば、養護教諭は、病院で診てもらう必要があるかどうかを確認する。食事や睡眠などの様子を聞きながら、生活指導することもあれば、ふと漏らした友だちや家庭の問題に気付くこともある」

「東日本大震災直後、被災地の養護教諭から『今は皆、空腹感や寒さから逃れるのに精いっぱいだが、落ち着いた時に心や体への傷が見えてくる。傷の深さは計り知れないが、子どもたちをサポートするのが養護教諭の役目』とメールが来た。養護教諭はどんな状況でも、子どもたちの保健管理や心のケアに見通しを持って取り組んでいる」

——働く環境はどうか。

「子どもたちの心と体の健康を守り育てるのは、学校教育の基盤。健康課題が多様化・複雑化し、虐待やいじめ、リストカットなど命にかかわる場合もある。養護教諭には専門性の向上が求められているが、研修は十分とはいえない。自治体は個人の努力任せにせず、もっと全体の底上げを図るべきだ。また、子どもに対応する十分な時間の確保も必要だ」

——複数配置についてどう考えるか。

「1人配置の場合、子どもの対応に十分な時間を割けないことが多く、教科担当の教員のように校内に相談相手もない。2人以上配置すれば、子ども一人一人に時間をかけて対応でき、養護教諭の数だけ多面的に子どもたちを見ることもできる。互いに相談し合ったり、学び合うことで、実践力の向上にもつながるので、全国規模でもっと増員するべきだ」（聞き手・矢子奈穂）

[2011年5月5日 読売新聞 教育ルネッサンス]



# 全国養護教諭研究大会 in 山形 + α

北海道石狩南高等学校 養護教諭 佐藤 弘美

「山形ってとっても暑いらしい」という前評判。人生初の気温35℃超えを体験できるかもと、わくわくしながら久しぶりの全国養護教諭研究大会開催地の山形市へ。ジメツとした空気ではなく、意外と爽やか。最終日まで爽やかでした。酷暑を体験できなくて、ちょっと残念。

高教研養護部会の会員でもある札幌稲雲高校の佐藤朱美先生が学校環境衛生についての研究発表をされました。保健委員生徒の清掃点検を例に、学校薬剤師との関わり方や学校環境衛生活動改善の実際(計画、保健委員による日常点検、アンケート調査による生徒からのアイデア等の情報収集)という発表内容でした。日々の学校生活に参考になることばかりで、学校環境衛生検査を遠くから眺めていた私にとって目から鱗です。発表内容の詳細については集録を是非読んでください。本当に参考になります。

空き時間に山形市内を歩きました。まちなかにお城がありました。テレビの時代劇や京都でしか見たことがありません。札幌にはない「歴史」を感じます。町にある「ウナギの寝床」にも、京都を感じます。やはり、夏は暑いんでしょうね。



全く別件ですが、最近SSW (School Social Worker) にもものすごく惹かれます。



## 「高教研新ホームページのご紹介と養護部会会員登録のお願い」

高教研養護部会事務担当 関 澄恵(北海道札幌北高等学校)

今年度は、北海道高等学校教育研究会創立50周年の記念大会でした。その記念事業の一環として高教研のホームページが全面改定され、本部事務局ばかりでなく地区支部及び教科部会が自由に運用できるページが設けられ、平成24年11月15日より運用が開始されました(<http://kokyoken.com/>)。これにより、他の13教科部会同様に養護部会のページも新設されています。部会のページは、部会運営をする者が更新するため、使いこなすにはまだ時間がかかりそうですが、お知らせ事項などを随時掲載していきたいと考えています。どうぞご覧ください。

なお、養護部会の今年度の会員登録数は64名と、最多年度の半数程度にまで減少しています。皆様もご存知のとおり、養護部会は、高教研発足時より部会が存在していたわけではなく、養護教諭諸先輩のご尽力により27年前に部会が設けられました。教科部会の一つとして養護部会が存在することには大きな意義があり、これ以上の会員減少をいとめなければ部会の存続が危ぶまれます。皆様には、何卒ご理解をいただきまして、次年度以降の会員登録をどうぞよろしく願いいたします。

### 本日の日程

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 9:20～ 受付      | 15:10～ 情報提供 |
| 9:40～ 開会      | 15:45～ 閉会式  |
| 9:50～ 講演      | 15:50～ 会場復元 |
| 11:20～ 総会     |             |
| 11:45～ 休憩     |             |
| 12:55～ シンポジウム |             |



「養護教諭」という職種が生まれてまだ

日の浅かった(?)学生のごころ、「養護教諭は教育者なのだ」という言葉を何度も聞かされました。そういう気概を胸に強く持って、学校保健活動を実践をしなさいという教えだったのだと思い、今さらのように思い出します。今日は、「教育」の意義が「人間の成長と発達」であることを踏まえ、現在の学校教育における「養護」の中核となる、学校保健分野を担う「養護教諭」という立ち位置を確認するとともに、これからの時代とこの職種の未来像を考えてみたいと思います。(K・S)

### 編集後記

